

理解力を深める学習指導の工夫  
— 紙人形劇「スーホの白い馬」を通して —

目 次

I	テーマ設定の理由	21
II	研究の仮説	21
III	研究の全体構想図	22
IV	研究の内容	23
1	理解力と表現力	23
(1)	物語教材の指導	23
(2)	理解力と表現力が相補う音読・朗読	23
(3)	表現活動	24
(4)	本単元で重視する紙人形劇	25
2	指導過程の工夫	27
(1)	低学年における物語教材の指導過程	27
(2)	一単位時間の指導過程	28
(3)	物語教材と読書活動	28
(4)	教材の特性に合わせた活動例	29
V	指導の実際	30
1	単元名	30
2	単元設定の理由	30
3	単元の総括目標	32
4	単元の具体目標	32
5	教材名	33
6	教材について	33
7	指導計画	35
8	本時の指導	37
9	授業のあしあと	39
VI	研究の成果と今後の課題	40

## 理解力を深める学習指導の工夫 — 紙人形劇「スーホの白い馬」を通して —

宜野湾市立大山小学校 教諭 松田 政美

### I テーマ設定の理由

国語科の目標は、「国語を正確に理解し、適切に表現する能力を育てるとともに、思考力や想像力および言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」ことであるとし、前段では言葉を通して自分のものの考え方をしっかりと持ち、表現する能力を育てることを目標にしている。学習指導要領では、領域が「理解」と「表現」に分けられているが、両者を関連させることで二つの能力はさらに向上すると考える。つまり、表現を呼び起こす物語や論理的な説明文に出会った時、子ども達は五感を働かせて、音声・文字・絵・動作化等で表現を楽しむ。それはまた、文章を正しく読み取る能力をも高めることにつながると考える。自分の課題を話したり読んだり書いたり、具体的な言語活動で表現させることで、自分の考えを形成したり友達と相互理解できたりするとともに、自分の考えをより良いものに高めることができる。このように理解力は、表現することによって確実なものになり、表現することによって理解の内容は深まっていくものととらえる。

そのためには、理解力と表現力を相補的に高めていくように単元構成や指導過程を考え、支援していくことを考えねばならない。また、叙述に即して正しく読み取り、想像力を働かせ、表現する力を育む指導の方途を探求することが必要となる。

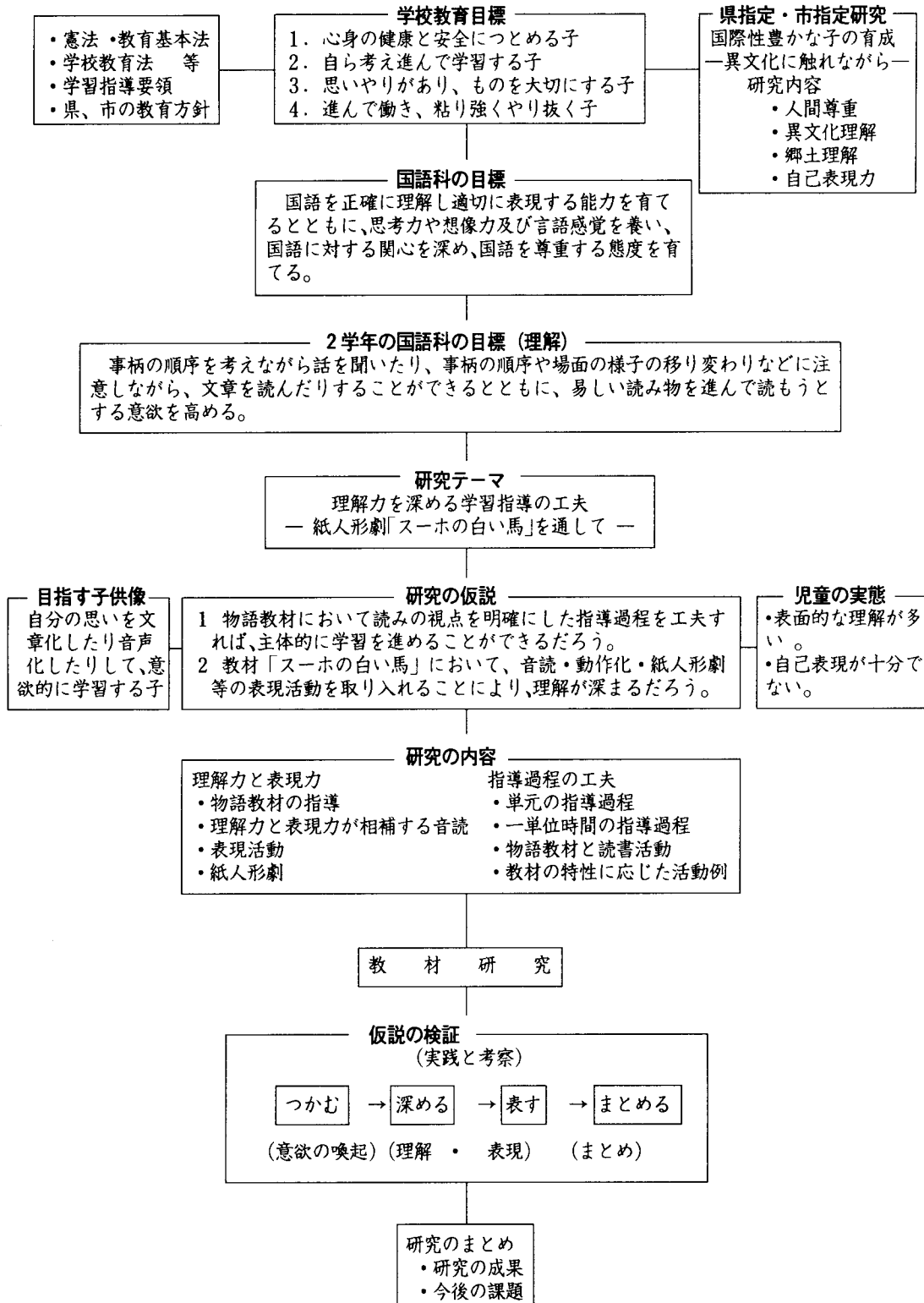
しかし、これまでの私の実践を振り返ってみると、教師主導の一斉指導を中心とした授業になりがちで、児童の主体的な考えを深める具体的な活動を組織できていなかった。また、内容を理解させる手立てとして、イメージ化する支援の工夫が不十分だったと反省する。

以上の反省を踏まえながら、理解を深める学習指導の工夫の一つとして、主に紙人形劇による表現活動を取り入れ、低学年の物語教材における学習指導の授業の展開を追究したいと考え、本テーマを設定した。

### II 研究の仮説

- 1 物語教材において読みの視点を明確にした指導過程を工夫すれば、主体的に学習を進めることができるだろう。
- 2 教材「スーホの白い馬」において音読・動作化・紙人形劇などの表現活動を取り入れることにより、理解が深まるだろう。

### III 研究の全体構想図



## Ⅳ 研究の内容

### 1 理解力と表現力

#### (1) 物語教材の指導

音読練習を重ねることによって読みの技能は高まっていくが、必ずしも内容を理解しているわけではない。特に低学年では登場人物になって身体表現したり、ワークシートの吹き出しに気持ちを書かせたりすること等によって言葉や内容が理解できたり、深められたりすることが多い。

例えば、教材「ふきのとう」の「雪の下にあたまを出して雪をどけようとふんばっているところだ。」を動作化させた時、実にさまざまな動きをしたが、どれも「踏ん張る」という姿ではなかった。踏ん張るという言葉が物語の中で確かめることにより、ふきのとうの様子やがんばりが理解できたのであった。

このように、教材文の言葉や表現を通して心情や情景をとらえ、人間の生き方や考え、感じ方に触れ、自分の世界を言葉を通して間接的に構築していくのが物語教材の読みととらえる。授業においては、次時の展開につなげたり、物語全体とからめたりする話し合い活動を通して、「おもしろいな」「かわいそうだな」「不思議だな」というような心を揺り動かされる体験を多く持たせ、「読みたい」という読書活動につなげる指導をしたい。

#### (2) 理解力と表現力が相補う音読・朗読

学習指導要領において「音読」は、4学年までは「理解」の領域に位置づけられている。

1年：語や文としてのまとまりを考えながら音読すること。

2年：文章の内容を考えながら音読すること。

3年：文章の内容が表されるように工夫して音読すること。

4年：事柄の意味・場面の様子・人物の気持ちの変化などが、聞き手にもよく伝わるように音読すること。

と、発達段階に応じて配列され、音読することが理解につながることを示している。

しかし5年生からは、「音読」は「朗読」という形で、

5年：聞き手にも内容が分かるように朗読すること。

6年：聞き手にも内容がよく味わえるように朗読すること。

を、「表現」領域に位置づけている。

これは、「朗読」というものを理解するための一手段だというとらえ方から、それだけにとどめず、朗読を通して「理解」と「表現」の二つの能力が相補って結果としての表現力が高められていくことを示す。つまり、教材の読み取りが深いほど表現意欲の高まりにつながり、また、教材の読み取りを一層深めるために表現したり表現を高めるために教材を読み取ったりと、「表現」と「理解」を関連づけることで二つの能力は培われると考えるからである。

(3) 表現活動

読みを深めるために、多様な表現活動が考えられる。物語の特性と児童の実態に合わせて表現活動を取り入れたい。

① 単元を通して行う表現活動の例

	低学年	中学年	高学年
音 声 言 語	音読		朗読
	お話会		
	劇・人形劇		
	紙芝居		
文 字 言 語		意見交流会	討論会
			研究発表会
	絵本・紙芝居		脚本
	お話・続き話	物語文(創作文)	
	詩		詩・和歌・俳句
	感想文	感想文・紹介文	
	生活文		生活意見文
		記録文・報告文	

② 教科書複合単元における

創作・表現活動

- 1年:物語の続き話を作ろう  
「きりかぶの赤ちゃん」
- 2年:紙人形劇をしよう  
「スーホの白い馬」
- 3年:紙芝居を作ろう  
「ねずみの作った朝ごはん」
- 4年:劇の続きを作ろう  
「地底の巨人国」
- 5年:物語を作ろう  
「わらくつの中の神様」

③ 理解を深化させる表現活動の例

表現活動	低	中	高	ねらい
絵すじ法	◎	○	・	物語の時間的な推移や場面の発展を読み取る
動作化法	◎	○	・	人物の気持ちや場面の様子を想像し読み取る
吹き出し法	◎	◎	○	人物の気持ちや性格を想像し読み取る
絵画法	◎	◎	○	人物の気持ちや場面の様子を想像し読み取る
視写法	◎	◎	○	人物の気持ちや場面の様子を焦点化し読み取る
サイドライン	◎	◎	○	文章の大筋の内容を読み取る
書き込み法	○	◎	◎	人物の気持ちや場面の様子を読み取る
小見出し法	○	◎	◎	段落の内容や段落と文章全体の関係を読み取る
心情曲線法	○	◎	◎	人物の気持ちの変容(推移)を読み取る
書き加え法	○	◎	◎	人物の気持ちや場面の様子を想像し読み取る
絵画法	◎	◎	○	文章の内容(要点)を読み取る
カード操作	◎	◎	○	文章の内容や文章の展開の工夫を読み取る
書き抜き法	・	◎	◎	文章の要点を読み取る
文図法	・	○	◎	文と文の関係や段落相互の関係を読み取る
構成図法	・	○	◎	文章全体の要点や文章の展開を読み取る

(4) 本単元で重視する紙人形劇

① 紙人形劇の利点

ア 意欲的に学習できる

「紙人形劇の発表会をしよう」というめあてに向けて、その日を楽しみに学習を進めることだろう。物語のあらすじや内容が理解できると学習に弾みがつき、興味・関心を持って紙人形を操作するだろう。

イ 聞く力が育成できる

音読を相互評価させたり音読に合わせて紙人形を動かす機会を通して、聞く力も育成できる。

ウ 理解力と表現力を総合的に伸ばせる

読み取ったことを紙人形を使って演じるには、じっくり読み取らねばならない。また、友達の意見を聞いて自分の理解の仕方を深めたり認識したりすることで、紙人形を演じる時の表現力の高まりにもつながる。

エ 個性を尊重でき、個人差にも対応できる

一人ひとりの読み方や演じ方を知ることによって感じ方や考え方の違いに気づき、交流する中でそれぞれを認め合う場が作れる。また紙人形を演じる時、その登場人物の気持ちや表情までも表すせりふの言い方を目指すので、内容理解の程度や表現の技能を把握でき、支援・称賛ができる。

オ 集団としてのまとまりができる

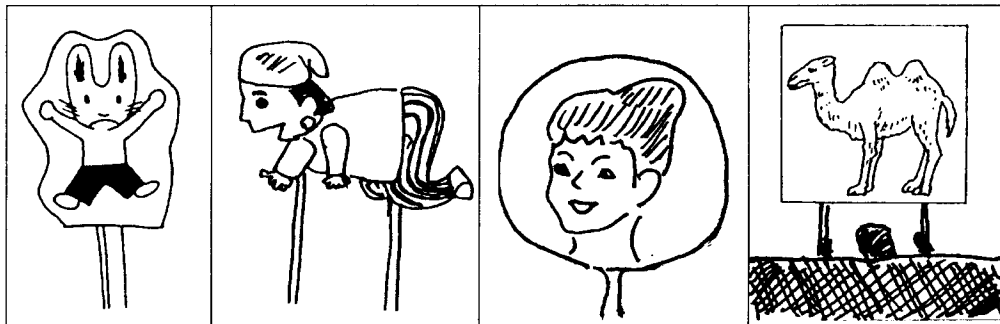
グループで台本を作ったり練習をしたりと発表会の準備を進める中で、集団の一員であるという自覚が持て、互いに認めあったり励ましあって学習を進める学級集団へと育っていくだろう。

カ 他教科・他領域への発展

児童が所属感を持ち意欲的に取り組むことにより、他教科・他領域への関心・意欲をも期待できる。

② 紙人形の作り方

ア 紙人形の例



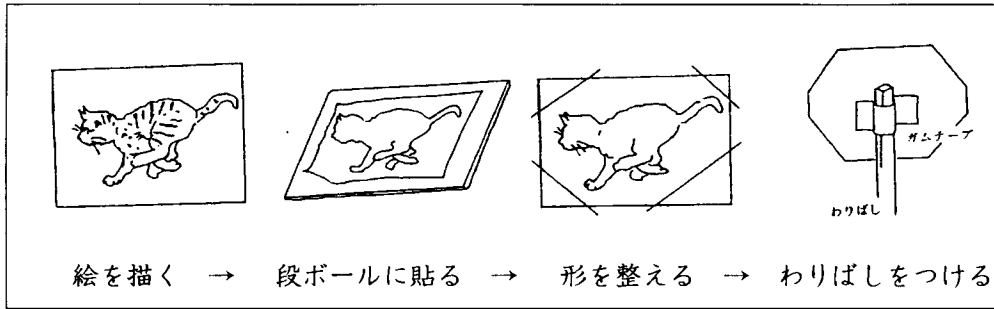
基本型

手足や首に関節を  
つけたもの

うちわを使ったもの

舞台が広い時

イ 作り方



大きさは演じる場所の広さに応じる

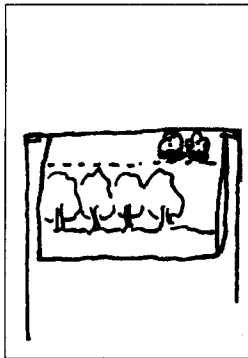
ウ 台本作り

せりふが少ない教材文は、読み取った事柄や想像した気持ちを会話文として取り入れる。

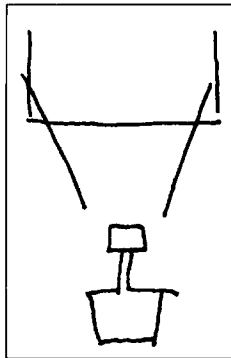
エ 配役

- ・ナレーター ・登場人物 ・動物（読み手と演じ手を分けてもよい）
- ・音響係（BGM，効果音）

オ 背景



絵をつないでおく

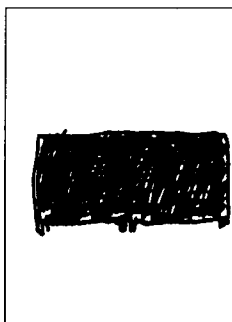


OHPで写す

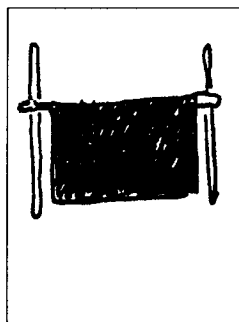


小道具を固定する

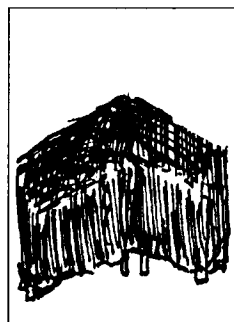
カ 舞台



机を利用する



バーを利用する



立体的に舞台を作る

キ 演じる時の注意

・むやみに人形を動かさない。

・話を聞いている人形は、聞いている間は動かさない。

・せりふの初めと終わりは話をする相手を向く。途中は観客に向けてもよい。

## 2 指導過程の工夫

2年生の物語教材は一学期には「ふきのとう」「スイミー」「王様でかけましよう」、二学期には「えいっ」「お手紙」、三学期には「力太郎」「スーホの白い馬」と、七教材ある。

これらの理解領域の指導内容は、

理解ウ 文章の内容を考えながら音読すること。

エ 時間的な順序、場面の移り変わり、事柄の順序などを考えながら内容を読み取ること。

カ 人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読むこと。

であり、根底で共通している。そこで、教材に合った表現活動を取り入れて学習を進めると読書活動につなげることを意識しながら、物語教材の指導で学習させたい共通項を抽出して低学年の物語教材における指導過程を次のように工夫した。

### (1) 低学年における物語教材の指導過程

過程	学 習 内 容	表 現 活 動
つ か む	<ul style="list-style-type: none"> <li>○範読を聞く</li> <li>○初発の感想を書く</li> <li>○新出漢字・読みかえの漢字・語句の練習</li> <li>○学習計画を立てる</li> <li>○登場人物を列挙する</li> <li>○登場人物の呼称をチェックする</li> <li>○時を表す言葉に気をつけてあらすじをつかむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を書く</li> <li>・音読の練習を始める</li> <li>・初発の感想を出し合い話し合う</li> <li>・サイドライン</li> </ul>
深 め る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○同じ作者や訳者・画家の本や、関連した図書を読む</li> <li>○表現活動を取り入れながら叙述に即して場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る</li> <li>○言語事項や漢字の学習は表現活動や理解活動を通して学習する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ図書の紹介文を書く</li> <li>・教材に合う多様な表現活動をする</li> </ul>
表 す	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元を通して取り組んできた表現活動の発表会をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会をする</li> </ul>
ま と め る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書活動の発表会をする</li> <li>○学習を終えての感想を書く</li> <li>○学習まとめのテストをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ図書の紹介をする</li> <li>・感想を書く</li> </ul>



(2) 一単位時間の指導過程

過程	主な学習活動とねらい
つかむ	《活動意欲の喚起》 ○ 前時を想起し、学習計画表に沿って本時の学習のめあてをつかむ
深める	《理解力の育成》 ○ 時間的な順序や場面の移り変わり・登場人物の気持ちや場面の様子などを叙述に即して読み取る。 ○ それぞれの考えを交流し、自分の考えを深めたり広げたりする。 ○ 表現活動を取り入れて理解を深化させる。
表す	《理解力と表現力の一体化》 ○ 理解をさらに深めたり表現を高めたりする。
まとめ	《本時の評価と次時の活動意欲の喚起》 ○ 読みの深まりや表現の高まりの評価をする。 ○ 次時の学習について知る。

(3) 物語教材と読書活動

読書活動を大きく分けると「読むことが楽しみとなる読書」と「問題解明のための読書」に分けられる。物語教材の発展としての読書は前者であろう。日常的に、または行事に合わせて読んだり読み聞かせたりするだけでなく、教材の学習と平行させて読書活動を展開したい。発展学習として「読みましょう」と誘うのではなく、その物語教材の学習を終えるまでに同一作者・訳者・画家の図書や関連図書を読み、紹介しあうことで読書意欲を高めたい。単元のまとめで読んだ図書の発表会をすれば、どの子も意欲を発揮するだろう。

上記のように物語教材の学習をパターン化することで、主体的な学習をするための素地が培われる。また、下記の利点が考えられる。

- ・ 既習の学習内容や方法が生かせる。
- ・ 学習の仕方が分かるので主体的に学習に取り組み、教材を重ねていくと導入部分（つかむ）の時間が短縮でき、理解したり表現したりの時間や読書の時間に充てることができる。
- ・ 表現活動を重視することで理解力と表現力が関連しつつ高まっていく。

(4) 教材の特性に合わせた活動例（2年生の物語教材）

物語教材において、教材の特性をとらえ単元のねらいが生かせるような表現活動を単元を通して行いたい。

単元を通して展開する表現活動の例と作者や関連図書をまとめてみた。

単元・教材	教材文の特性	単元を通す表現活動	作者・訳者 関連図書
本をひらこう 「ふきのとう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生最初の教材</li> <li>・登場するものが擬人化されている</li> <li>・リズムカルな表現が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割音読</li> <li>・役割演技</li> </ul>	工藤直子
様子を考えて読もう 「スイミー」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話文が多い</li> <li>・場面の移り変わりがわかりやすい</li> <li>・登場人物が多く、全員参加できる</li> <li>・体言止め、倒置法、比喩、気持ちや色を表す形容詞などが多く表現が巧み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読</li> <li>・動作化</li> <li>・視写</li> </ul>	レオ：レオニ (訳) 谷川俊太郎 ----- 外国の絵本
本はともだち 「王さまでかけましよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーモラスな王様が主人公</li> <li>・会話のやりとりや物語の展開がおもしろい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想文</li> <li>・お手紙</li> </ul>	寺村輝夫
おもしろいところ をみつけよう 「えいっ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くまの父と子の対話を中心</li> <li>・魔法の呪文のような「えいっ」という言葉の働きがおもしろい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うちわで役割音読</li> <li>・続き話</li> </ul>	三木卓 ----- 神沢利子 「くまの子 ウーフ」
気持ちを考えて読もう 「お手紙」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二匹のかえるの対話を中心</li> <li>・場面が移るごとに気持ちの移り変わりや心の触れ合いを描いている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面をつけて役割音読</li> <li>・お手紙</li> </ul>	アーノルド・ローベル (訳)三木卓 ----- 外国語絵本
昔話を読もう 「力太郎」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語り口がおもしろい</li> <li>・奇想天外な展開をする</li> <li>・擬態語・擬声語が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読</li> <li>・紙芝居</li> </ul>	今江祥智 ----- 日本民話 沖縄民話
紙人形劇をしよう 「スーホの白い馬」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合単元</li> <li>・登場人物と同化しやすい</li> <li>・人と動物の心の結び付きがテーマ</li> <li>・会話文が少ないが書き加えることで脚本化できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙人形劇</li> </ul>	大塚勇三 赤羽末吉 ----- 民話・昔話 (外国・日本 ・沖縄)

## V 指導の実際

### 国語科学習指導案

平成7年1月20日(金)5校時

大山小学校 2年1組 女21名男17名

指導者 松田政美

#### 1 単元名 紙人形げきをしよう

#### 2 単元設定の理由

##### (1) 単元について

これまで子ども達は「ふきのとう」や「スイミー」で劇遊びを、「えいっ」で役割音読を行ってきた。「スイミー」ではみんなで大きな魚になってスイミーの知恵や勇気に感動した。「えいっ」では父と子のユーモラスなやり取りを「えいっ」と動作も交えて音読し、物語のおもしろさを味わった。「王様でかけましょう」では場面ごとのあらすじやおもしろさをラフ本にして表した。しかし、これらの表現活動・創作活動は発展学習としてであり、本単元でねらうような内容理解のために単元を通して行う活動ではなかった。

本単元は事柄の順序を考えながら正しく読み取ったり、人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読む理解学習と、音声、発音に注意して内容を考えながら音読する言語の学習と、紙人形をするために読み取ったことを会話文にして脚本にする表現学習を複合させて指導する。

内容理解のために単元を通して行う活動としては紙人形を使い、理解を深化させるために紙人形の他に、音読で気持ちを表したり、吹き出しを使って想像したことをまとめたりさせたい。

読みが深まるにつれ、スーホと白馬の心の結び付きがそれぞれの児童の心の中に揺り動かされる感動を呼ぶと共に、紙人形劇を演じることを通してその楽しさや物語の楽しさを味わうことができるだろう。

##### (2) 児童の実態

- ① これまでの物語文における理解学習では、登場人物の心の移り変わりや変容を物語全体の流れとからめて考えることが弱かった。
- ② 本好きな子が多く、科学読み物(4類)や物語(9類)を好んで読む。民話(3類)は比較的少ない。
- ③ 音読や劇遊びを伸び伸びと自己表現できる子もいるが、音読の声が聞き取れない程小さい子、ワークシートに書けていても恥ずかしくて発表したがない子もいる。
- ④ 本校は県・市教育委員会より「帰国・外国人子女教育」の指定を受け、異文化に触れながら国際性豊かな子の育成を目指してこの2年間取り組みを進めてきた。2学年では、沖縄や外国の楽器を実際に見たり聞いたり調べたりした後自分で楽器を

作り、学年集会を持って紹介しあったり演奏したりする取り組みを通して、外国の楽器や生活・文化について興味を持たせ、国際理解への芽生えを培ってきた。

⑤ 初発の感想より

スーホの懸命な介抱にも拘わらず白馬が死ぬ場面に、「悲しい」(7名)「かわいそう」(3名)「痛かったろう」(2名)などと感想が集中した。「しんばいでねむれないくらいスーホは白馬がすきなんだ。」「白馬はスーホがすきだから矢にさされても帰ってきたんだ。」(3名)と、スーホと白馬の心の結び付きをとらえている子達や、殿様に対して「どうしてうそをつくの。」と迫る子、また、「馬頭きんを作ったので、いつも白馬といっしょだね。」(3名)と作品に迫る子がいる一方で、「馬の肉はどうしたの。」「馬頭きんの音が聞きたい。」という素朴な疑問や意見もあった。

(3) 指導について

① 音読を継続評価する

毎時間の音読の指名を数名とし、学習状況をチェックして、児童一人ひとりの理解・表現の様子や根底にある児童の感じ方や考え方をつかむ。ふりかえりカードで自己評価させたり、相互評価させたりして助言や称賛を繰り返して、学習意欲の持続を図る。

② 初発の感想を生かす

一人ひとりの初発の感想を発表させ学習計画作りに生かしたり、読みの程度やつまづきや対立点を把握するのに利用する。終わりの感想と比較することで読みの深まりを知ることもできる。自分達が出し合った感想が学習計画作りに生かされたり紹介されたりするので、書くことが苦手な子も関心を持って取り組むだろう。

初発の感想の書かせ方には、自由に書く・登場人物にあてて書く・好きなどころや感動したところを書く・表現の工夫を見つけて書く・疑問点を書く・みんなで話し合いたいことや考えたいことを書く等があり、書かせる時期も一読後・範読後・あらすじをつかんだ後等あるが、本単元ではこの物語に対する初期の一人ひとりの読みの様子を知るために範読後自由に書かせることにする。

③ 視写をさせたり吹き出しを書かせたりする。

各場面の重要な文や会話を正しく視写させたり、想像した登場人物の気持ちを吹き出しに書かせることによって、読み取りを確かなものにする。

④ 理解を助けたり深めたり表現力を高めるために、紙人形による表現活動を重視する。

⑤ 複合語が多く出てくるので、動作化したり説明を加えたりして、意味を理解させる。

⑥ イメージ化を助ける。

果てしなく広がるモンゴルの草原に伝わる馬頭琴の由来話なので、モンゴルの自然やくらしを紹介するビデオや写真・絵本・馬頭琴の音を見せたり、聞かせたりする。

⑦ 読書活動への発展

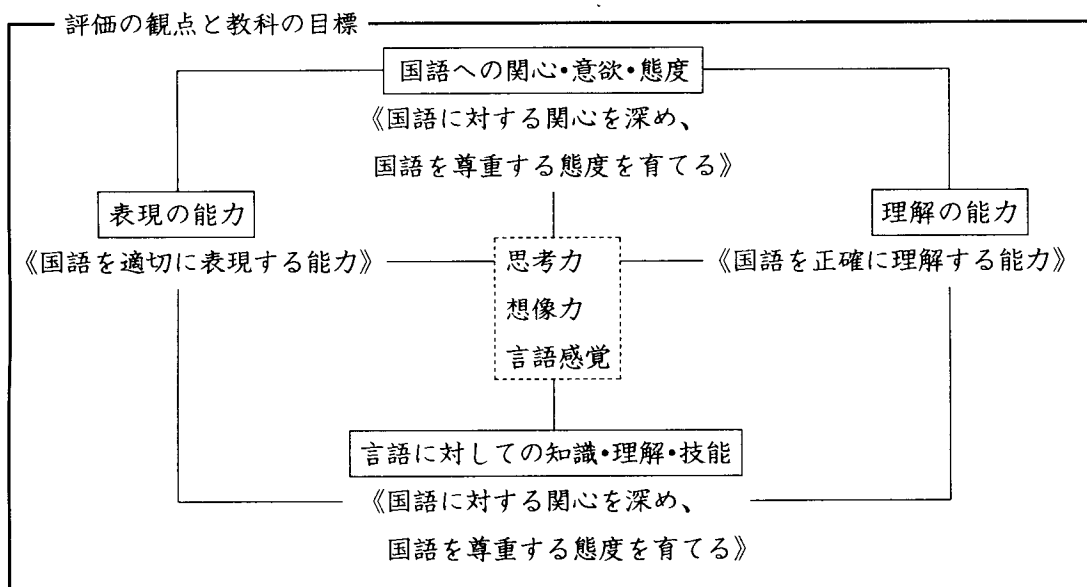
この教材は由来話・再話であるが、「外国の民話や昔話を読もう」という読書のめあてのもとで、読みたい本だけでなく広く読書活動を進め、一言感想を書かせて読書案内コーナーに掲示する。それを学習のまとめの発表会で紹介させる。

### 3 単元の総括目標

- (1) せりふや動きを工夫しながら、進んで自分たちの劇を作ろうとする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 場面の様子や登場人物の気持ちが表れるように工夫しながら紙人形劇を発表することができる。(表現の能力)
- (3) 場面の移り変わりや様子、登場人物の人柄、その時どきの気持ちを想像しながら読むことができる。(理解の能力)
- (4) 姿勢、口形、声の大きさに注意して音読することができる。  
(言語についての知識・理解・技能)

### 4 単元の具体目標

観点	具 体 目 標	評価方法
関心 意欲 態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴルの様子や遊牧民の生活について関心を持つ。</li> <li>・劇の練習や話し合いや発表会に進んで参加する。</li> <li>・外国の民話や昔話に関心を持つ。</li> </ul>	観察
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人物や物語について思ったり感じたことを書いたり話したりする</li> <li>・物語の好きなところや場面の中心になるところを視写する。</li> <li>・音読やせりふに合わせて紙人形の動きを工夫する。</li> <li>・場面の様子や登場人物の気持ちが表れるように読む。</li> </ul>	ワークシート ワークシート 観察
理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の移り変わりや様子、登場人物の人柄、気持ちを読み取る。</li> <li>・登場人物の気持ちや場面の様子を想像して音読する。</li> </ul>	ワークシート 観察
言語 観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢、口形、声の大きさに注意して音読したり、文章やせりふに合った言い方をする。</li> <li>・時を表す言葉・比喻・複合語について知る。</li> </ul>	観察  ワークシート



## 5 教材名 「スーホの白い馬」

### 6 教材について

#### (1) 教材化の視点

この教材は内モンゴル地方の13種ある馬頭琴伝説の1つを大塚勇三氏が再話して赤羽末吉氏が絵を描いた作品。人や荷物を運んだり、馬乳酒・馬肉として食生活に欠かせず、草原の遊牧民の家族にとってかけがえのない馬、どの伝説でも馬への愛を描いている点で共通しているという。

心をこめて世話をして立派に育った白馬とスーホの間に流れた平穏な日々が理不尽な殿様によって破られ、白馬を取り上げられてしまう。無力なスーホの無念さが文章からも絵からも伝わってくる。赤いバックに数頭の馬が躍動する場面、遠景に描かれた地平線の馬たち……ページを追うごとにモンゴルのイメージが膨らんでいくさし絵の効果は大きい。流れる月日を追いながらスーホと白馬の心を通わせることができた喜びと、対比する悲しみをしっかりとらえさせ、子ども達に自分なりの感想意見を持たせたい。

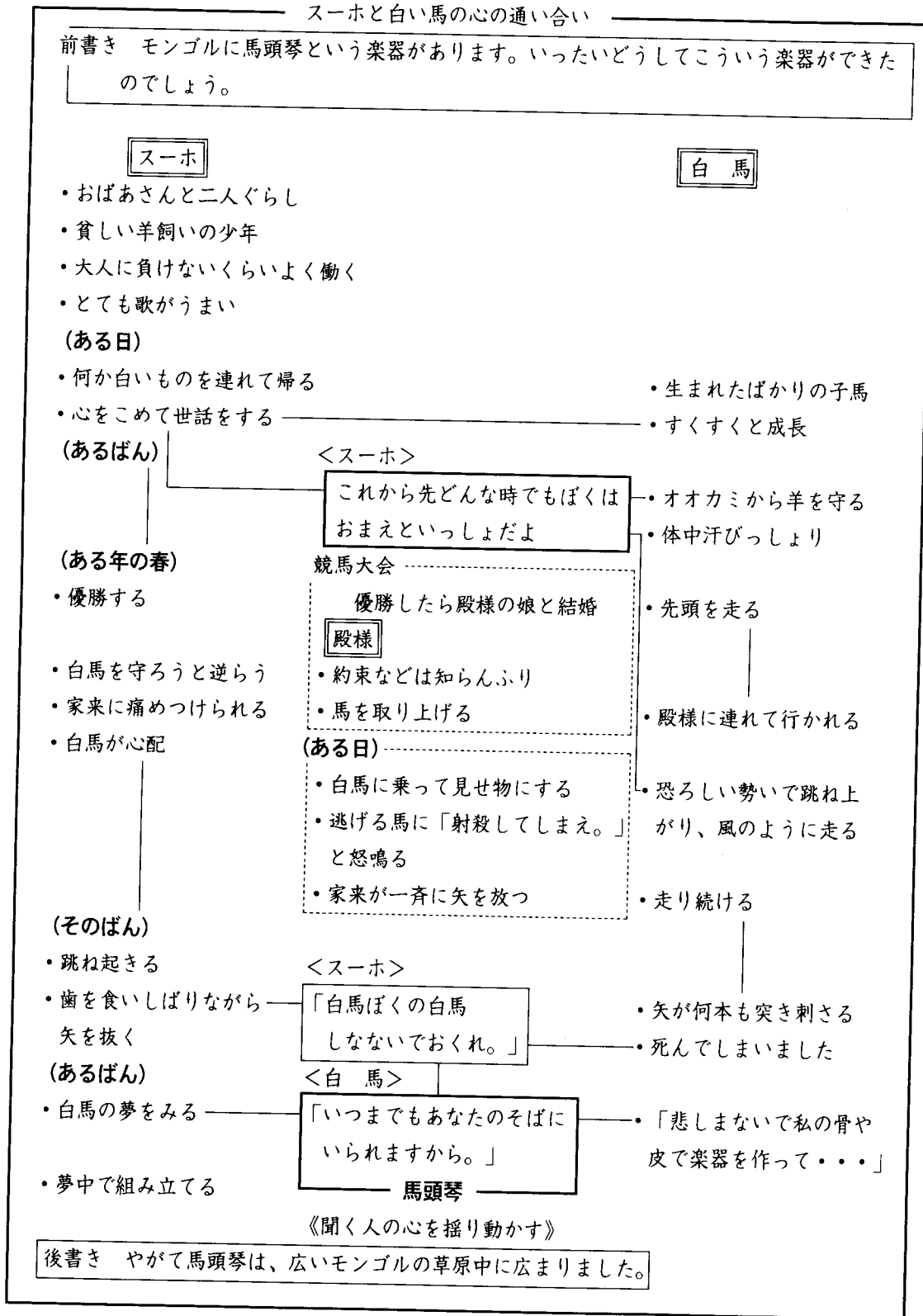
民話の中には、殿様や代官等支配階級からの重圧を強く受ける民衆や個人が知恵を働かせたり協力することによって負かしたり、怒りを笑いに変えたりするものが多い。しかしこの話はそうではない。スーホが馬頭琴を弾けば弾くほど悔しさや悲しさ、そして楽しかった当時のころが思い出されるという間接体験を読者も味わうだろう。しかし、「死んでしまいました。」で終わるのでなく、馬頭琴を通してもう誰にも引き裂かれることができない結び付きができたという救いがある。悔しさと安堵感、どちらのどらえかたをも認めることが作品を味わうことにつながる。このような恐怖や危険や不安を感じる読書体験は知恵と勇気を与えてくれ、成長の過程で出会うさまざまな困難や危機感に対して、自分でそれらに耐え、乗り越えようとする蓄えにもなることを期待したい。

外国の民話としては、1年の「おおきなかぶ」(ロシア)を受け3年「三年とうげ」(朝鮮)につながっていくので、民話を通して国際理解に目を向けた学習も意識したい。

#### (2) 表現の特質

- ① 「いったいどうしてこんな楽器ができたのでしょうか。それにはこんな話があるのです。～これが馬頭琴です。」という由来を語る形式をとっている。
- ② 場面ごとに視点を変えながらおばあさん・ひつじかい・スーホ・白馬・殿様の目と心に寄り添って語られているので、スーホのことを心配したり殿様への怒りを抱いたり、読者は知らず知らずのうちに登場人物に同化できる。
- ③ 「どんな時でもおまえといっしょだよ。」という思いが場面を変えても繰り返されていることで、スーホと白馬の願いが認識できる。
- ④ スーホと白馬の気持ちと殿様の言動・行動を対比することで、スーホと白馬が一緒にいたい気持ちや人物像が明確にできる。

(3) 教材の構成



7 指導計画 (23時間)

	目 標	時	主 な 学 習 活 動	主 な 表 現 活 動	主 な 評 価 の 場 面
つ か む	範読を聞きかいたんな感想を書くことができる	(5) 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元のねらいを知る</li> <li>読書の目当てを知る</li> <li>感想を書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想を書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想をまとめることができたか。</li> </ul>
	物語の粗筋をつかむことができる	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の呼称に気をつけながら、登場人物を列挙する。</li> <li>時を表す言葉に気をつけながらあらすじをつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイドライン</li> <li>サイドライン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面ごとのできごとがまとめられたか (ワークシート)</li> </ul>
	学習計画を立てることができる	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字、読みかえの漢字を学習する。</li> <li>感想をもとに学習計画を立案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読</li> <li>感想の発表、話し合い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指名して読みを確認</li> <li>計画が立てられたか。(観察・ワークシート)</li> </ul>
	紙人形を工夫して作る事ができる	4 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の表情や服装を挿絵や文章を参考にして作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙人形作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工夫して紙人形を作ることができたか。(観察)</li> </ul>
深 め る	場面の移り変わりや登場人物の人物柄その時どきの気持ちを想像して読み取ることができる。	(9) 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>前書きを読んでこの物語がモンゴルに伝わる馬頭琴にまつわる由来話であることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モンゴルや馬頭琴に興味を持てたか (観察)</li> </ul>
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーホはどんな少年でどんな生活をしているか読み取る。</li> <li>叙述から</li> <li>音読</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーホの紹介文を書く</li> <li>スーホとおばあさんの会話を想像して吹き出しに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーホの人物像をつかむことができたか (ワークシート)</li> </ul>
		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーホと白い馬の出会いを読み取る。</li> <li>羊飼いとおばあさんの様子から</li> <li>スーホのせりふから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>羊飼いとおばあさんの心配でたまらない気持ちを想像して吹き出しに書く。</li> <li>音読</li> <li>スーホが子馬を抱きかかえる様子を動作化する。</li> <li>音読に合わせて紙人形で演じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子馬を連れて来た理由を読み取ることができたか。(観察・ワークシート)</li> </ul>
		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○白馬とオオカミの闘いからスーホと白馬の心の結び付きを読み取る。</li> <li>汗びっしょりで闘う白馬の様子から</li> <li>白馬をなでながら話すスーホの言葉から</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オオカミと羊の闘いを会話文にし、吹き出しに書く</li> <li>○挿絵を参考にオオカミの前に立ち塞がり、必死に羊を守る白馬を動作化する</li> <li>○スーホの白馬への気持ちを吹き出しに書く。</li> <li>○スーホの言葉を視写する</li> <li>○音読</li> <li>○音読に合わせて紙人形で演じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「これから先どんな時でも、ぼくはおまえといっしょだよ。」という言葉が白馬との心の絆を表すキーワードであることが読み取れたか。(観察・ワークシート)</li> </ul>
		5 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○比喩について知る。(雪のように・とぶように)</li> <li>○複合語について知る。(跳ね起きる・駆けつける・跳び出す・とびかかる・立ち塞がる・追い払う・駆け寄る等)</li> <li>競馬大会での白馬の活躍と白馬を取られたスーホの気持ちを読み取る。</li> <li>競馬大会の知らせの確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読</li> <li>挿絵と叙述を参考に競馬大会で先頭を走る白馬の様子を紙人形で演じる。</li> <li>白馬を取り上げようとする殿様とスーホの会話を役割音読する。</li> <li>白馬を取り上げられた悲しみや悔しさを想像して書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比喩や複合語について知ることができたか。(観察)</li> <li>(ワークシート)</li> <li>白馬を取り上げられたスーホの悲しみや悔しさを読み取ることができたか。(観察)</li> <li>(観察)</li> <li>(ワークシート)</li> </ul>



		6	<p>殿様のもとから逃げ出す白馬とそれに対する殿様、それぞれの気持ちを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風のように駆け出す白馬の様子から</li> <li>・殿様の言動と家来の行動から</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読</li> <li>・スーホのもとへ帰りたいと必死に走る白馬の気持ちを吹き出しに書く。</li> <li>・殿様のせりふを音読する</li> <li>・場面を想像しながら音読し、紙人形で演じる。</li> </ul>	<p>スーホに寄せる白馬の気持ちを読み取れたか。</p> <p>(観察) (ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白馬に対する殿様の態度や様子が分かる様に音読ができたか。</li> </ul>	
		7	<p>○白馬を介抱するスーホの様子や気持ちを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひどい傷を受けた白馬の様子から</li> <li>・必死に介抱するスーホの様子から</li> <li>・音読</li> </ul> <p>○複合語の学習 (跳ね起きる・かけて行く・突き刺さる・流れ落ちる・走り続ける等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯を食いしばって矢を抜く様子を動作化する。</li> <li>・願ひ空しく死んでしまう白馬へのスーホの気持ちを吹き出しに書く。</li> <li>・場面を想像して音読し、紙人形で演じる。</li> <li>・動作化したリワークシートに書いたりする。</li> </ul>	<p>白馬を失ったスーホの悲しみや悔しさが読み取れたか。</p> <p>(ワークシート)</p> <p>(観察) (観察) (ワークシート)</p>	
		8	<p>夢の中での白馬とスーホの心の結び付きを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白馬の言葉から</li> <li>・夢中で馬頭琴を作るスーホの様子から</li> <li>・どこへでも馬頭琴を持って行くスーホの行動から</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白馬の言葉を視写する</li> <li>・白馬の言葉を音読する</li> <li>・馬頭琴を弾く時のスーホの気持ちを吹き出しに書き、紙人形を使って発表する。</li> </ul>	<p>自分の体を楽器に変えてスーホといつまでも一緒にいたいという白馬の気持ちを読み取れたか。</p> <p>(ワークシート) (観察)</p>	
		9	<p>後書きを読んでモンゴルの草原中に広まった馬頭琴について読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・馬頭琴の音を聞いて</li> </ul>	<p>馬頭琴の音を聞いている時の羊飼いの気持ちを想像して吹き出しに書く。</p>	<p>スーホと白馬の心の結びつきは馬頭琴によって一層強まったことを読み取ることができたか。</p> <p>(ワークシート)</p>	
表 す	人物の動きや気持ちがよく表れる様に工夫しながら人形劇を発表することができる。	(6)	紙人形劇をするための手順を知り、グループで演じる場面を決め役割を分担する。	話し合い	話し合いでの意欲 (観察)	
		1	必要な紙人形や背景、台本を作る。	話し合い 台本書き	活動での意欲 (観察)	
		2	紙人形劇の練習をする。	登場人物の気持ちが表れるように声の大きさや読む速さを工夫して読む。 せりふに合わせて紙人形を動かす。	登場人物の気持ちが表れるように声の大きさや読む速さを工夫して読む。 せりふに合わせて紙人形を動かす。	登場人物の気持ちが表れるような音読ができたか。 読み手に合わせて紙人形が動かせたか。 (観察)
		3				
		4	発表会の進め方や目当てを話し合う。	話し合い	(観察)	
		5	発表会をする	紙人形劇	(観察)	
6						
ま と め	学習のまとめをする	(3)	単元を通して読んできた外国の民話や昔話、大塚勇三・赤羽末吉の本を紹介する。	本の紹介をする	読書活動の様子	
		1	学習を終えての感想文を書く。 (紙人形劇のこと、物語について登場人物について等)	感想文 感想文発表	心に残ったことを感想文にまとめることができたか。 (テスト)	
		2	学習まとめのテストをする。			

## 8 本時の指導 (10/23)

- (1) 本時のねらい  
競馬での白馬の活躍と白馬を奪われたスーホの気持ちを読み取る。
- (2) 本時における授業仮説
  - ① 挿絵を参考にしたり紙人形で演じることによって、競馬で白馬が活躍する場面の読み取りがより深められるだろう。
  - ② 殿様が馬を取り上げる場面を役割音読させることによって、殿様とスーホの人物像をとらえることができ、白馬を奪われたスーホの気持ちが的確に読み取れるだろう。
- (3) 展開

過程	学習内容・重要語句	教師の支援	表現活動	評価(方法)
つかむ	1 めあてをつかむ けい馬大会での白馬の様子と、白馬を取り上げられたスーホの気持ちを読み取る	・挿絵提示 ・学習計画表提示		
	2 P73L4～P76L8を読む ○一斉音読(自分の速さで読む) ○役割音読(グループで) ○指名音読(1グループ)	・音読が苦手な児童のそばで支援する	・音読	(観察、支援) (相互評価・称賛、助言)
深め	3 白馬を取り上げられたいきさつを読み取る。 ○知らせについて知る。 競馬で一等になった者は殿様のむすめと結婚させる ○競馬で白馬が走る様子を読み取る。 ・いっせいに ・馬はとぶように ・でも先頭を走っているのは ○殿様が馬を取り上げる場面の会話を確認する。 〈とのさま〉 ・ぎんかを三枚くれてやる ・白い馬をここにおいてさっさと帰れ ・ただのひつじかいが 〈スーホ〉 ・売りに来たものではありません ○殿様がやくそくを破った理由を考える。 ・まずいみなり ・ただのひつじかい ○白馬を取り上げられたスーホの様子から気持ちを考える。 ・かっとなって ・なぐられけどばされ ・やっとうちまで ・何日かたつとやっときずは治ってきました ・白馬をとられたかなしみは消えません	・読み取れない子にはサイドライトを引かせる。  ・挿絵を見たり紙人形を使って走る様子をつかませる。  ・殿様とスーホの紙人形を提示 ・二人の言葉を対比することで殿様の横暴な様子をとらえさせる。	ワークシートに書く  ・音読 ・紙人形で演じる  ・役割音読	・白馬が走る様子が読み取れたか。(観察)
	る	・前時の『これから先どんな時でもぼくはおまえといっしょだよ。』と関連づける。	・殿様がスーホのことをどう見ているかわかる場所にサイドライトを引かせる。  ・スーホの気持ちを吹き出しに書く ・発表	・サイドライン
表す	4 音読する ○一斉音読 ○役割音読(会話文) ○指名音読(2グループ)	・どのように読むか自分のめあてを言わせて音読させる	音読	気持ちが表れるように音読ができたか。 (相互評価・称賛、助言)
まとめ	5 本時を振り返って自己評価をする。	次時予告をして意欲を持たせる	自己評価	ふりかえりカード

(4) ワークシートより

けい馬大会のお知らせ

時...0月△日□時より

はしよ...なつたもの

ことうになつたもの

まのすめとけい馬大会

白馬をとり上げられてスーホはどう思っているでしょう。スーホになつたつもりで書きましょう。



あんなひつじかいをむす  
ののむこにしたら、むす  
めかひんぼうになつてか  
いぞうだ、ぎんかをやるう。

今日のめあて

5けいは大公演の白馬のようすと、白馬をとり  
面あげられたスーホの気もちをよみとろう。

なぜこのさまはやくそくをやぶつたのでしょうか。このさまの考えをそうぞうして書  
きましょう。

名前

白馬ぼくの白馬とっして  
いるのかな。みじいな  
ぼくの白馬をとりあげ  
るよんて。



(5) 表現活動の様子



競馬大会 (写真①)

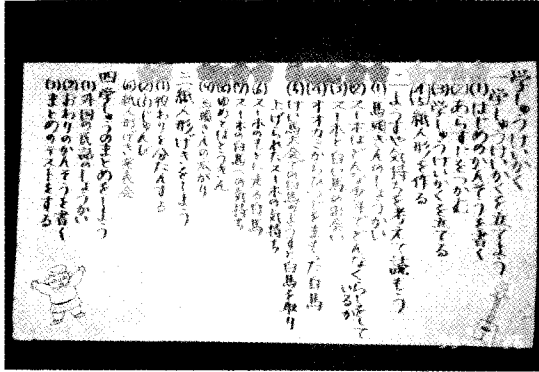


役割音読 (写真②)

(6) 授業仮説の検証に関する考察

- ① 文章を読み取り挿絵でイメージを膨らませた子ども達は、想像力を働かせ紙人形を持って、競馬大会を教室、所狭しと繰り広げた。実際に自分が演じ、また友達が演じるのを見て、「一斉に」「飛ぶように」という言葉の理解だけでなく、競馬大会での白い馬の活躍がつかめたようである。紙人形の活用は文章理解につながり、効果的であったと考えられる。(写真①)
- ② 登場人物になりきって、横暴な殿様と必死に抗議するスーホの姿を役割音読で表現できた。その後ワークシートには、殿様への怒りやスーホの心配や願いを自分なりに表現していた。表現活動を取り入れたことが、登場人物の人柄や気持ちを読み取る手立てとして、功を奏したのだと考えられる。(写真②)

9 授業のあしあと



<初発の感想を利用して学習計画作り>

<「これも民話」「これは赤羽末吉の本」と読書活動へも広がる>



<スーホと白馬の心の結び付きをとらえた吹き出し>

1月9日(日曜日) 1時 単元名「スーホの白い馬」							
本時の目標... 範読を聞き、かんたんな感想を書くことができる							
評価の観点... 1. かんたんに感想をまとめる。(表現)							
2.							
3.							
黒板				(口は場面・教室)			
① 2.3	① 2.3	① 2.3	① 2.3	① 2.3	① 2.3	1.2.3	① 2.3
I	K	R	N	T	J	Y	A
用馬蹄身の	用馬蹄身の	用馬蹄身の	用馬蹄身の	用馬蹄身の	用馬蹄身の	用馬蹄身の	用馬蹄身の
① 2.3	① 2.3	① 2.3	① 2.3	① 2.3	1.2.3	① 2.3	① 2.3
T	M	S	A	N	N	K	M
用馬蹄身の	用馬蹄身の	用馬蹄身の	用馬蹄身の	用馬蹄身の	用馬蹄身の	用馬蹄身の	用馬蹄身の

ふりかえりカード	
スーホの白い馬: 名前	
字書ないう	6X)A
1. かんそうをまとめる。 家で音読をする。	
2. 場面ごとにとり場人物を書き出す。 場面ごとのできごとをワークシートに書く。 家で音読をする。	
3. 新しくなら漢字、読みかえのかん字のたいをおぼえる。 字しゅうけいかくをたてる。 家で音読をする。	
4. くふうして紙人形を作る。 家で音読をする。	
5. くふうして紙人形を作る。 家で音読をする。	
6. モンゴルという国やゆうほくみんのせいについて知る。 このお話が馬蹄身さんについてのゆらい話ということを知る。 しせいや口の形、声の大きさに気をつけて読む。	
7. スーホがどんな少年かしょうかい文を書く。 しせいや口の形、声の大きさに気をつけて読む。	

<学習意欲や読みの様子を把握するのに役立つチェックカードとふりかえりカード>

## VI 研究の成果と今後の課題

理解力を深めるために、表現活動を取り入れた学習指導の工夫・改善を課題として、物語の指導過程や表現活動を盛り込んだ指導計画、指導の工夫・改善についての研究・実践を進めてきた。その中で、一定の成果が得られ、また課題も見えてきた。

### 1 研究の成果

#### (1) 物語の指導過程の工夫に関して

- ① 物語の指導過程を（つかむ→深める→表す→まとめる）として、読みの視点を明確にした学習内容を指導過程の中に位置付けることにより、単元の学習指導内容の精選ができた。検証授業では、学習の進め方を分からせることができ、学習意欲の持続が図られ、自発的な学習を促すことができた。
- ② 二学年の「物語の特性に合わせた表現活動例」や、「表現活動を盛り込んだ指導計画」の立案により、有効な表現活動が見出せ、年間を通して偏りのない活動が計画できた。
- ③ 教材の内容理解と平行して読書をするを指導過程に位置付けて実践したことで、30冊にのぼる民話が紹介されるという読書活動への広がりにつながった。

#### (2) 表現活動を重視したことに関して

- ① 物語を理解する手立てとして表現活動を取り入れる学習を展開することで、学習が活動的になり、表現を高めることができた。ワークシートの表現内容を追っていくと、登場人物や作品に対してその子らしい怒りや共感・願いなど感想意見が表現できていたり、作品に迫っていたりと、理解の深まりが伺えた。
- ② 日頃おとなしい子が堂々と殿様役を演じたり、理解した内容が紙人形劇の台本作りに発展したりと、この教材における紙人形の活用効果を見ることができた。

### 2 今後の課題

- (1) （つかむ→深める→表す→まとめる）という物語の指導過程での授業実践の深化
- (2) 二学年においては、「物語の特性に合わせた表現活動例」の実践による検証、他学年においては、「物語の特性に合わせた表現活動例」の考案
- (3) 読み聞かせ、個人差に応じた音読の指導法等、読む力となる素地作りの追究
- (4) 表現活動の際の効果的な支援の在り方
- (5) 表現活動をさせる際の教室やオープンスペースの効果的な利用法

#### 〈主な引用・参考文献〉

文部省	「新しい学力観に立つ国語科の学習指導の創造」	東洋館出版	1993
飛田多喜雄	「読む力を伸ばす新読解指導法の開発」	明治図書	1993
岩崎明	「音読・朗読を生かした指導の方法」	光村図書	1992
荒木英治	「教材研究ハンドブック22」	明治図書	1993
大牟田市立羽山台小学校研究紀要	「豊かに表現する子どもを育てる国語教育の創造」		1994